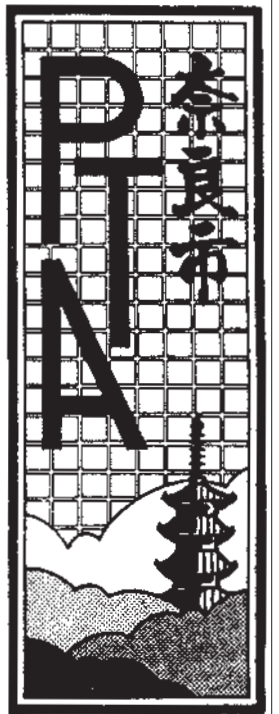


第5回全会員対象研修会 先生の働き方改革を PとTで考えよう!



発行人
南條雅哉
奈良市PTA連合会
奈良市三条本町1-80
TEL 35-6388
編集
市P連広報委員会
印刷所
エムエーグラフィック

CONTENTS

— 1P —
第5回全会員対象研修会
『みんなで学べる研修会』
先生の働き方改革を
PとTで考えよう!
《第2部》講演
教育研究家
一般社団法人
ライフ&ワーク代表理事
妹尾昌俊氏
《第1部》取組事例発表
奈良市立春日中学校
校長 坂本 静泰 先生

コラム万華鏡はおやすみします

— 2P —
第5回全会員対象研修会
『みんなで学べる研修会』
先生の働き方改革を
PとTで考えよう!
《第3部》パネルディスカッション
『子どものタブレットの使い方』座談会
奈良市長と奈良市PTA連合会理事会
との懇談会

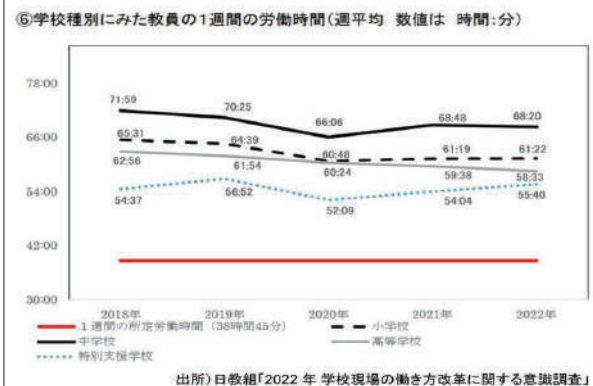


5人の子どものお父さんでもある妹尾昌俊氏
気さくな雰囲気でご自分のご家族の話も盛り
込みお話ししてくださいました。

先生の仕事は過酷すぎる
①6分(小学校)、8分(中学校)②41%(公立小学校教諭)これは何の数字だと思いますか?①は先生方の1日の休憩時間で、②は公立の小学校教諭の睡眠障害の疑いが強い人の比率(2016年調べ)です。多くの先生方が休憩時間もなく寝不足の状態と聞いていい水準だと思えます。シンプルに言いたいのは「眠くていい授業ができますか?」ということなのです。下は2022年に日教組が調査した

先生たちのハッピーが子どもたちの笑顔につながる。
第2部の講演は、政府の委員や教育委員会のアドバイザー等で活躍されている教育研究家の妹尾昌俊先生をお招きし『先生たちのハッピーが子どもたちの笑顔につながる。』と題し、お話ししていただきました。

奈良市PTA連合会 第5回 全会員対象研修会 『みんなで学べる研修会』を開催
今回のテーマは先生の働き方改革
令和5年1月20日(金)なら100年会館大ホールにて第5回全会員対象研修会『みんなで学べる研修会』を開催しました。4年ぶりに開催した研修会は、全国的に問題視されている、先生の働き方の実情を知り、先生と保護者とともに考える機会になればと『先生の働き方改革』をテーマに取り上げました。



『学校種別にみた教員の1週間の労働時間』のグラフです。小学校61時間、中学校68時間は、月80時間以上の残業で過労死ラインを超えています。いつ倒れてもおかしく

くない働き方で異常な職場です。
教員不足
教員不足はこの4月から既に深刻です。育休、産休の代わりの先生が見つかからない、病休の先生の代わりも年度途中に補充できない状況です。文部科学省や各教育委員会が政策提言やディスカッションをしています。深刻な状態です。その結果、保護者に教員免許を持つていないかとお便りを出している自治体もあります。教頭先生や担任代行をしたりと、本来担任ではない先生が補助に入っています。その上補充がきかないとなると、今いる先生方で分担して頑張らなければならなくなります。熱心な、親切な、子ども思いの先生ほど疲弊することになり、心や体が壊れてしまします。子どもたちのウェルビーイング(心身ともに良好な状態)に関心のある人は多いでしょう。しかし、教員が疲れ果てている状態で、児童生徒のウェルビーイングは高まるでしょうか。

ルビーイングを高めることが重要で、これは学校の教育力や児童生徒にも影響します。
先生のハッピーが子どもの笑顔をつくる
横浜市立学校の教職員の働き方改革プランのサブタイトル(先生のハッピーが子どもの笑顔をつくる)が好きなんです。できれば保護者の皆さまもこの言葉に共感、

共通理解していただければと思います。長時間労働の影響は①教師の健康への影響②教育への影響(児童生徒への影響)③人材確保への影響と大きく3点があげられます。中央教育審議会答申において『基本的には学校以外が担うべき業務』として①登下校に関する見直し、②放課後から夜間における見直し、児童生徒が指導された時の対応③学校徴収金の徴収・管理④地域ボランティアとの連絡調整等が挙げられています。学校業務の必要性や分担を見直し、より重要なことに、子どもたちの豊かな学びに繋がることに時間とエネルギーを使っていけるような学校になればいいと思っています。

現状を放置できない理由
先生の過労死が問題になっています。年代では40代の過労死が一番多く、月別では6月、10月、次いで1月が多いというデータがあります。公立学校教員の1カ月以上の長期療養者の表では、2021年度に小学校で5500人余り、中学校を合わせれば8000人以上の先生が精神疾患で長期療養しています。理由は様々ですが、このような実態があることを保護者の皆さまにも頭の片隅に置いておいてほしいと思います。働き方改革は単なる時短ではありません。先生たちの健康を、命を守るプロジェクトなのです。教職員の健康、ウェ

PTAは自立した保護者組織として、学校運営の参画者であり、辛口の友人として『学校の応援団』となる。

《第1部》取組事例発表 春日中学校の『今』 ～PTA組織改編・働き方改革～ 奈良市立春日中学校 校長 坂本 静泰



春日中学校 校長 坂本静泰先生

- ～PTA組織改編～
2021年3月に新組織へと改編。前年踏襲の強制的なPTAから、子どもたちのために、学校運営に保護者の意見が反映されるPTAへと形を変える。
- ～学校のデジタル化～
・さくら連絡網の活用:全ての保護者に届く
①欠席連絡、健康チェック、コロナ罹患情報
②事務的な連絡やアンケートに活用
③部活動関係の連絡
④個別の連絡
⑤PTAからの情報発信とアンケート調査
⑥学校のHP更新情報(学校だよりの代替となる)
⑦奈良市からの情報提供
・GIGA端末、校務支援システムの積極的な活用
①教員の朝の打ち合わせは校務支援システムで情報共有
②会議や研修資料のペーパーレス化
③時間割は次週分を金曜日に Google クラウドにアップ→電話による欠席連絡の時短
- ～働き方改革～
【部活動】
①部活動指導員の任用(教育行政の制度)
②早朝練習の撤廃(生徒の健康管理と教員の出勤時間の適正化)
③日課を見直し、年間を通して17時下校を実現
【授業時間の確保】
単元テストの実施:今年度は定期考査と単元テストをミックスで実施。定期考査を行う教科が減り、1日で実施することで授業時間を確保→既定の時間数の確保が容易
【修学旅行】
①新型コロナウイルス感染症対応による近距離バス利用、1泊2日がきっかけ
②今年度の修学旅行:中学生に相応した平和・防災学習、国際理解、芸術鑑賞、アクティビティを実施
・計画、立案、実施に要する時間と旅行費用の削減



《助言》
教育研究家
妹尾 昌俊氏

小学校の教科担任制や、部活動も、自分が子どもだった頃の思い出が強いが、そういった保護者の疑問や意見は大事な…



《パネリスト》
奈良市教育委員会
事務局教委部次長
垣見 弘明氏

本市で取り組む内容としては、ICカードを使った出退勤管理や、スクールサポートスタッフによる補助、部活動支援として…



《パネリスト》
中学校校長会会長
若草中学校校長
の場 宏純先生

夕方以降は留守番電話対応とし、デジタル化で印刷の手間を減らしたり保護者アンケートを行ったりしている。時間を生み出…



《パネリスト》
小学校校長会会長
西大寺北小学校
神谷 佳宏先生

1カ月当たりの超過勤務を調べたところ、過労死ラインの80時間以上超過勤務をしている先生が5名、45時間以上の先…



《パネリスト》
奈良市PTA連合会
会長 南條 雅哉

中学校の部活指導が働き方改革の課題になっているのは知っている。部活動のあり方について、学校間や先生間にも差が…



《パネリスト》
奈良市PTA連合会
副会長 福田 亜紀子

先生方は18時退勤を目指している。何か子どもの事で気になることがあった時に、どのような連絡体制がいいのだろうか…

パネルディスカッションの続きは動画で！みんなで学べる研修会(1部・2部・3部)の動画を当連合会ホームページでご覧いただけます。『働き方改革』における先生の思い、保護者の思い、そして何故今、改革が必要なのか。保護者も無関係ではありません。研修会の様子をぜひご覧ください。

仲川市長と市PTA連合会との懇談会



北谷雅人奈良市教育長、奈良市教委員会の各課の先生方にもご出席いただき緊張の面持ちで臨む理事の皆さん

2月16日(木)奈良市役所正庁において仲川げん奈良市長と奈良市PTA連合会理事会との懇談会を開催しました。平成22年度から続いてきたこの懇談会ですが、コロナ禍で休止していたため、4年ぶりの開催となりました。

冒頭、仲川市長は「奈良市は今、子育て世代の転入が増えていて、子育て環境や教育環境の充実が期待されているので、教育長、教育委員会を中心に、市長部局としても人員体制や予算面で後押ししていきたい。」と挨拶されました。

中学校部会からは、部活動の地域移行について、小学校部会からは、高齢化で担い手不足になっている地域活動をPTAにやってほしいという要望があるがそれを担いきれないPTAの現状について、また小・中高校共通のテーマとして、長期休職される先生の代わりが見つからないことについて意見が出されました。幼稚園部会では、給食時のパーティーや行事の復活などの今後の対応について、奈良市の幼稚園、こども園の今後の展望について、市長の考えを伺いました。その他、老朽化した施設設備の長寿命化や、閉園した幼稚園舎の活用、不登校の子ども達への支援についても活発に意見が交わされました。

一時間という短い時間でしたが、対面でお互いの顔を見て話す大切さを実感でき、保護者や現場の先生の声を市長に聞いていただく良い機会となりました。



それぞれの立場で異なる意見が飛び交う

- 【参加者】
奈良市教育委員会事務局教育部学校教育課 課長補佐 西村 ともみ先生
奈良市教育委員会事務局教育部学校教育課 ICT教育推進係係長 米田 力先生
春日中学校校長 坂本 静泰先生
奈良市PTA連合会会長 南條 雅哉
奈良市PTA連合会副会長 河内 有紀
奈良市PTA連合会 理事 中高校部会部長 山野 賢二
奈良市PTA連合会 理事 小学校部会部長 原田 由佳
奈良市PTA連合会 理事 小学校部会 上田 由美

米田 先生、保護者の方から「タブレット学習が『作業』になっている場面があるとすると、漢字を覚えないと、密度の高い文章が書けないのではないかと思う。保護者も学校も、学力や使い方、健康面にモラルと、様々な危機感を感じている。教育委員会はしっかり検証をしないとけないのではないかと思う。」
河内 文章が書けないのは怖い。大人数でも記述させる問題が増えてきている。文章の書けない子どもも育ってしまうのは問題だと思ってる。
山野 僕は、先ほどの話にあったり、コールドスタートの場合、従来の授業の中で失敬体験も、成長の過程では、子どもたちにとって大切なことだと思ってる。さらに、SNSを通じての見えない相手への抵抗感のなさ。現実の人間関係の希薄さが怖い。
坂本 今、保護者は非常に不安を感じていて、本来、不安はその原因を取り除けば解消されるが、タブレットを取り除くことはできない。だとすれば、保護者が理解できるように、内容を理解してもらった上で、保護者が不安に思っている問題に対して、不安を解消する方策、情報をきちんと出していかないと、これは保護者の声と学校現場の声、やはりここで一旦立ち止まり、子どもたちの学力や、学校、家庭で起きている問題を検証する必要があるのではないか。
西村 タブレットを使うことによって、今までできなかった事ができるようになり、使うことに関する発信が多かった。保護者の不安や疑問に対して、学校や他の課とも連携しながら具体的に何か提示できればと思う。
米田 奈良市が取り組むデジタルシナジー教育について、もっと保護者の方へ周知していく必要があると分かった。様々な問題に対する解決策の必要性と情報発信を、教育委員会としてもしっかり取り組んでいきたいと思う。

The 座談会 子どものタブレットの使い方

昨年度より、子どもたちのタブレットの使い方に関して、『YouTubeばかり見ている』『時間制限をかけてほしい』との声が多く上がる中、奈良市の進めるデジタルシティズンシップに理解も進んでいません。保護者、学校、教育委員会の代表が膝を突き合わせて話をしようとする座談会を開催しました。

南條 奈良市が取り組むデジタルシナジー教育を、保護者としてきちんと理解し、子どもたちが効果的にタブレットを利用するにはどうすればいいのか。この座談会を保護者の疑問や不安を解決する場にしたと思う。
米田 令和2年9月に奈良市ではGIGAスクール構想の推進と、コロナウイルス感染拡大のため、急速にデジタル端末を貸与し、ネット環境を整備して子どもたちに一人一台タブレットを貸与し、ネット環境を整備した。端末を使ってGIGAスクール構想をどう進め、コロナ対策や新しい学習支援にどう使うかを考えてきた。コロナ禍での学習支援では、自宅で授業を受けられるようには机の前で座って先生の話を聞くだけでは、自分の考えを表現するといった、主体的な学びが重要になってくる。
南條 GIGAスクール構想を進めて行く中で、どんな声があるのか？米田 賛否ある。低学年でも動画でプレゼンテーションをしているとか、私たちの時代とは違うなどといった声がある一方、奈良市全体としてもGIGAスクール構想の方向性を伝えていき、理解を得る必要があると感じる。
西村 教育委員会に届く声は賛否あるが、例えばリコーダーの発表など、授業中に先生が確認していたものを家で何回も練習して一番納得いくものを出せるということがある。また、特に低学年の児童で、端末の重さについてご意見をいただくことがある。
河内 先生は、各学校で持ち物の工夫をするなどの取組を行っている。
南條 保護者の声としては？
原田 先生によって、ICT端末を使うスキルにかなりの差がある。先生の技術力の差で、子どもたちの発表にも差があるように感じる。先生方への指導をお願いしたい。
上田 先生によって、毎日タブレットを使って楽しく宿題をしているクラスもあれば、まったく家庭学習に活用していないケースもある。学校がタブレットを家庭学習で、どのように活用したいのかが分からない。子どもはYouTubeを見ただけで止まらないし、先日の『スシロー動画』もただのオモシロ動画という捉え方。親も教えないといけないが、学校でもそういったことを教えて欲しい。本当に困っている。
米田 確かに教員間でICTに関する技術に違いがある。保護者が抱える、子どもの端末の使い方や悩みに対して、教師は支援していかないとだめだ。
南條 坂本先生いかがですか？
坂本 現状の取組からは、形が進んでいるだけで、中身の検証がなされていない。授業スキルの件も、アナログの授業力の上にICTを使うというのを確認しなければ非常に危ういのではないかと。最近、中学に入ってくる生徒の文章力が落ちてきている。タブレット学習が『作業』になっている場面があるとすると、漢字を覚えないと、密度の高い文章が書けないのではないかと思う。保護者も学校も、学力や使い方、健康面にモラルと、様々な危機感を感じている。教育委員会はしっかり検証をしないとけないのではないかと思う。
河内 文章が書けないのは怖い。大人数でも記述させる問題が増えてきている。文章の書けない子どもも育ってしまうのは問題だと思ってる。
山野 僕は、先ほどの話にあったり、コールドスタートの場合、従来の授業の中で失敬体験も、成長の過程では、子どもたちにとって大切なことだと思ってる。さらに、SNSを通じての見えない相手への抵抗感のなさ。現実の人間関係の希薄さが怖い。
坂本 今、保護者は非常に不安を感じていて、本来、不安はその原因を取り除けば解消されるが、タブレットを取り除くことはできない。だとすれば、保護者が理解できるように、内容を理解してもらった上で、保護者が不安に思っている問題に対して、不安を解消する方策、情報をきちんと出していかないと、これは保護者の声と学校現場の声、やはりここで一旦立ち止まり、子どもたちの学力や、学校、家庭で起きている問題を検証する必要があるのではないか。
西村 タブレットを使うことによって、今までできなかった事ができるようになり、使うことに関する発信が多かった。保護者の不安や疑問に対して、学校や他の課とも連携しながら具体的に何か提示できればと思う。
米田 奈良市が取り組むデジタルシナジー教育について、もっと保護者の方へ周知していく必要があると分かった。様々な問題に対する解決策の必要性と情報発信を、教育委員会としてもしっかり取り組んでいきたいと思う。